

ワークショップのプログラム・プロセスに関する研究  
 ～緑の基本計画を例にとり～

佐賀大学理工学部都市工学科 学生会員 野中政宏  
 佐賀大学理工学部都市工学科 正会員 外尾一則  
 佐賀大学理工学部都市工学科 正会員 葛 堅

1.はじめに

近年多くの市町村で都市マスタープランや緑の基本計画が策定されている。その中で住民参加型会議ワークショップ（以下WS）が実施されている。しかし、WSの目的とプログラム・プロセスの違い、参加住民に与えるべき情報の欠如、住民の関心の無さなどが影響して満足のいかない結果になるようなこともしばしばあるようである。

本研究は、緑の基本計画の策定において実施されるWSについて現状を把握し、WSの開催目的に対してどのようにプログラム・プロセスを組めばよいか、また、組むときの留意点を明らかにするものである。ここでプログラムとは一回の流れを指し、プロセスとは初回から最終回までのテーマを追った流れを指すものとする。

2.研究の方法と概要

緑の基本計画の策定においてWSを取り入れている九州内の市町村に対しアンケート調査を行い、市町村がどのようなWSを実施しているかを把握する。またWSの「人数」「時間」「成果物」「プログラム」の満足度を行政からの視点で5段階評価してもらう。さらにヒアリング調査を行い問題点や課題を明らかにする。  
 九州の緑の基本計画策定状況：策定中 30 市町村 策定済み 31 市町村  
 ワークショップ開催状況： 5 市町村

3.WSの実施目的とプロセスの現状

対象市町村	A市	B市	C市	D市	E町
第1回 WS	現状を知る	現状を知る	将来像を提案	まち歩き	現状を説明
第2回 WS	探る	緑を見る	現状を知る		市の将来像
第3回 WS	深めよう	探る	まち歩き		
第4回 WS	将来像提案	創る	キャッチフレーズ作り		
第5回 WS	実現方法模索		まちの方向性		
第6回 WS	キャッチフレーズ作り		検討会これ以後検討会		
実施目的					

- 1、住民の意向を把握し、計画の際の参考とするため    2、住民の意見を計画に盛り込むため  
 3、住民で素案を作成するため    4、住民の理解を得るため    5、関心を高めるため

これらから言えることは、A市とB市では多少の目的の違いが見られるがプロセスに関してはほぼ同じである。5の項目の「住民の関心を高めるため」の点数が高い市町村がまち歩きを行っている。つまり住

民の関心を高めるためにまちあるきは有効なツールとして使われているようである。

#### 4. プロセスの評価と課題

右図は各市町村の全WSの要素別満足度の平均を示したものである。A市は「人数」の要素のほかは満足度が高い。B、C市に関しては全体的に満足度が低い。E町に関しては「成果物」に満足していることが分かる。D市に関しては必要な回答を得てない。全市を通して「人数」に関しての満足度が低いことが分かる。

##### タイプ別分類

アンケート調査によりプロセスの2パターンに分類できると考えられる。

タイプ1. 「初回現状把握型」 A市 B市 D市 E町

タイプ2. 「初回目標設定型」 C市

このパターン1と2を比較したときタイプ1では、初回に「現状を把握」というテーマを設定したため、参加者が自分たちのまちをマップ上でイメージを共有でき、意見収集が割と容易に行えたようだ。しかし、タイプ2では初回に「目標」を設定しているため、参加者のイメージがばらばらになり、意見収集が容易に行えなかったことがヒアリング調査により明らかになった。

緑の基本計画のWSのプロセス作成の留意点は、初回に参加者のイメージを共有させるためのマップ作りがひとついえる。C市のように、初回に目標を設定しWSを進めることは、意見をまとめて素案に反映させる際に時間や労力がかかり効果的とはいえない。

A市において、「時間」「成果物」「プログラム」の要素がすべての回において満足度が高いのは、第6回WSにおいて、参加者がとても熱心に「キャッチフレーズ」を作成したことで、住民と行政がとても満足しているためと思われる。「キャッチフレーズ」は素案にも入れやすく、また住民たちも自分たちの意見が取り入れられたと思えば達成感も十分にあると考えられ、「キャッチフレーズ」作りは有効なテーマ設定だと考えられる。

緑の基本計画は都市マスタープランなどとは違い、目で見ることができるものが対象であるので、WSを開催することは有効な住民参加手法である。そして部屋の中の話し合いだけでは情報の共有に限界があるのでまち歩きをしてさらなる情報の共有をして、住民がWSに参加して自分たちの意見が計画に取り入れられたという達成感を味わえるようにする工夫が必要である。

#### 5. まとめ

緑の基本計画策定の中にWSを取り入れている市町村はまだ少ない。WSの経験不足などから失敗するならば、はじめからやらなければよかったという雰囲気が行政の間にあるようである。たしかにWSは一回開催する時間の何倍も時間をかけて企画を行う必要があるので、手間が大変かかるようである。しかしWSは意見収集のためだけではなく住民間のコミュニティ形成のためにも重要なツールであると思われる。ファシリテータの力量にも影響されてくるが、プロセス・プログラムの工夫によりWSの質を上げ、住民が主体的となって取り組むようになればよりよい地域づくりへと発展していくのではないだろうか。

#### 6. 課題

今回の研究は行政からの視点でプログラム・プロセスの分析を試みたが、開催市町村の特徴などのさまざまな要素が影響してくるので、今後はさまざまな要素の研究も必要になってくるとと思われる。

